

# 医療史 中世から近世

## 第2回

診療情報管理士テキスト  
診療情報管理 I も参考のこと

# 中世のアラビア

- 医学的特徴：イスラム教国家での医学の進歩。  
とくに、カルテ（診療録）の記載
- イスラム由来の医学用語：コーヒー、センナ、  
アルデヒド、アルカリ、アルコール、カリ、ソーダ
- 西洋への医学知識の普及

# 中世のヨーロッパ

- ローマ帝国滅亡の5世紀以降、14世紀ころまでペストなどの伝染病が広がる
- 対策：
  - 水道の設置、
  - 食品管理
- 修道会の設置：病院の原型ができる
- 医学校の設置：サレルノ、ボローニャ、パリ

# 中世の中国

- 漢方医学の発達
- しかし、経験重視の医学
- 薬物療法、鍼きゅう術
- 唐・宋の時代：印刷機の発明と医学知識の普及

# 近世のヨーロッパ(1)

- ベサリウス: 1543年に禁止されていた人体解剖を実施し、人体の正確な理解
- パラケルスス: 錬金術の発達とそれに伴う薬の発達、精神病も悪魔や精霊の仕業ではなく医療対象と認識
- パレ: 創傷の外科、義手・義足、血管けっさくによる止血

# 近世のヨーロッパ(2)

- ハーベイ: 心臓の観察から、血液の循環を説明。
- 印刷機の発明: 医学知識の普及
- 顕微鏡の発明
  - マルピギーの毛細血管の発見
  - レーウェンフックの赤血球、細菌の発見
- ラボアジエ: 呼吸の生理の解明
  - (生物の代謝と物質の燃焼は同一)

# 近世のヨーロッパ(3)

- シデナム: 疾病分類を行った
- ブールハーフェ: ベッドサイドでの医学教育を行った
- アウエンブルゲル: 打診法の発明
- ラエフェック: 聴診器による診断法
- ジェンナー: 種痘の予防接種
- プラヴァース: 1852年に注射器を発明

# まとめ

- 現在の医学の原型は19世紀ころまでに確立
  - 修道院を中心とした病院システム
  - 疾病分類
  - 打診
  - 聴診器
  - 予防接種
  - 注射器